



真言宗智山派総本山智積院展示収蔵庫

# 宝物館だより

vol.3

令和六年度企画展

## 「総本山智積院

### ―修復の歴史―

開催中

宝物館では、令和六年五月一日（水）より「修復」をテーマにした令和六年度企画展を開催しています。

破損や虫食い、絵具の剥離などがある資料は、それ以上の劣化を防ぐため、適宜修復を施す必要があります。資料の劣化には、温度や湿度、虫害、光（紫外線）、ホコリなどさまざまな要因があります。これらに気を付けていても、経年による劣化は避けられませんが、後世に残すためにも資料の修復は欠かせません。

智積院では、江戸時代・明治時代に数度、大規模な資料の修復が行われました。智積院の資料の中には、当時の記録が残っ

ているものがあります。今回の展示では、そのような資料を中心に展示し、智積院で行われた修復の歴史を概観します。

また、宝物館で常時公開している障壁画も同様に、これまでに数度、修復が施されています。

近年では、宝物館内の大書院上段おおいまげんじょうだんの再現部分でご覧いただける『松に立葵図』たちあおい（国宝、長谷川等伯一門筆、桃山時代、六面）の修復が行われ、昨年、修復後の姿を初めて公開するに至りました。

修復が施されてきたことにより、現在でも絢爛豪華に残る障壁画を、ぜひ宝物館でご鑑

賞ください。

※会期中は作品保護のため展示替えを行います。

※展示期間は四ページの展示目録をご確認ください。

真言宗智山派総本山智積院宝物館  
千六〇五―〇九五― 京都市東山区東瓦町九六四  
令和六年（二〇二四）十月一日発行  
編集 智積院教化部展示収蔵課

令和六年度企画展  
総本山智積院  
―修復の歴史―

長谷川等伯一門  
国宝障壁画  
常時公開

長谷川等伯 松に秋葵図  
二画一友 桃山時代（部分）  
屋敷茶屋 一帳 江戸時代（部分）

# 展示品紹介

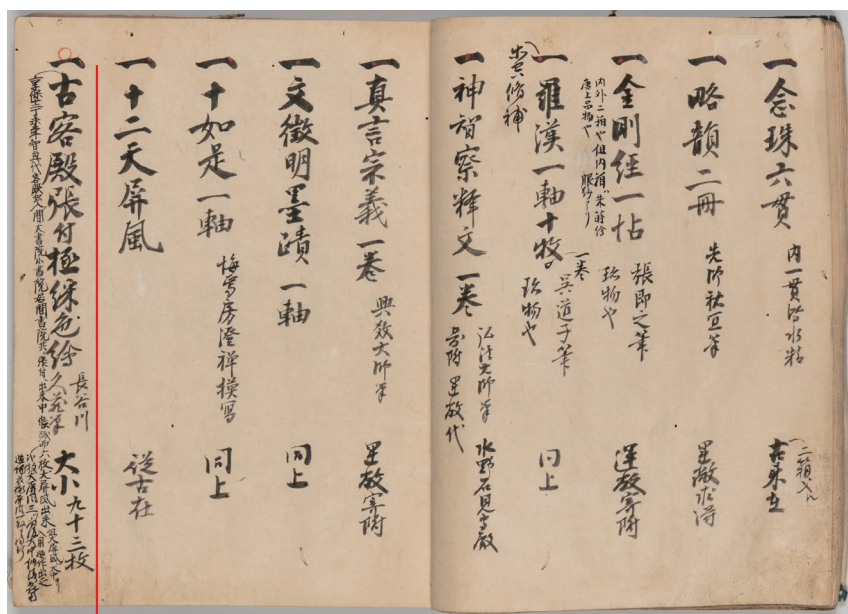
## 智積院靈寶并袈裟世具目録上

こちらは、宝永二年（一七〇五）六月に作成された、現存する最古の智積院の什物台帳（財産目録）です。智積院第十世専戒僧正が作成しました。「上」とあるように、智積院にはこれの下巻にあたる『智積院法具世具目録 下』も残っています。上巻と同様に、専戒僧正によって作成されました。

上下巻ともに、当時、智積院に存在していた仏像や法具、法衣、絵画類などが記されています。それぞれの寄付者や作者、点数、修復者なども列記しており、来歴を知るにあたって重要な資料の一つです。

上巻には、智積院国宝障壁画に関する記述があります（写真①赤線部分、赤線は筆者による加筆）。天和二年（一六八二）に起こった火災後の障壁画の様子を知ることができ、注目に値します。

焼失を免れた障壁画は、当時、襖から剝がした「まくり」と呼ばれる状態で、長櫃に入れて保管されていました。それが、享保十二年（一七二七）に客殿衆入間・大書院・小書院・居間書院へと転用され、残り



写真①智積院靈寶并袈裟世具目録上 縦 29.7cm × 横 22.5cm

た障壁画が、現在残る形に改変されたのは、この時であったと考えられています。障壁画自体にこのような記録が残されている訳ではありません。そのため、障壁画が辿ってきた歴史を知るうえで、この目録は欠かせない資料の一つとなっています。そのほかにも今も智積院に残る資料が、連綿と受け継がれてきたことを示す貴重な当目録を、ぜひとも宝物館でご覧ください。

# コラム

## 『松に立葵図』修復事業

令和三年（二〇二一）四月より同五年三月まで『松に立葵図』の修復が行われました。施工業者は株式会社岡墨光堂さまです。

修復に入る前に、事前の確認調査がありました。各面の採寸、使用されている絵具や紙の状態、過去に行われた修復の跡などが調べられました。

智積院障壁画は昭和二十二年（一九四七）二月に、表面に合成樹脂を塗布する修復をしています。この合成樹脂の水分量が減少し、少し引き攣れを起こしたことにより、それに接している障壁画の絵具の一部が剥離している場所がありました。また、絵が描かれている紙（本紙）の継目も、経年によって糊が剝がれている箇所がありました。

これを受け、絵具が剥落しないような処置と、本紙を補強するため裏に貼り重ねている紙（裏打紙）の取替などが決定されました。

修復作業は、京都国立博物館敷地内にある岡墨光堂さまの工房で行われました。

本紙と裏打紙を骨組みから取り外す解体作業のうち、絵具の表面についた汚れの

クリーニングをし  
ます。汚  
れが除去  
できたら  
本紙の表  
面を保護  
し、肌裏  
紙といっ  
て本紙の  
すぐ裏側  
にある紙  
を除去し  
ます（写  
真②）。



写真②肌裏紙の除去作業

肌裏紙の除去が終われば、本紙の欠失部  
分に紙を補い（補紙）、本紙の裏に新たに  
肌裏紙を貼り付けます。

その裏に裏打紙を貼り重ね、下地に貼り  
付けたのち、補修紙を入れた箇所を補修を  
施します。このような流れで修復を終えた  
『松に立葵図』は、当館の大書院上段の間  
再現部分へと収められました。

修復作業にともなう調査で、各面の切り  
継ぎ跡や補修跡が明らかになったことは、  
非常に重要な点です。

『松に立葵図』も、ほかの智積院障壁画  
と同様に、もとは襖であると考えられてお

り、今回、岡墨光堂さまの調査により、本  
紙の一部には引手跡や鍵穴の跡が残ってい  
ることが明らかになりました。  
写真③は違棚左脇下の拡大写真です。白  
い花の一つが赤線で丸く囲われています。  
ちょうどこの部分を赤外線で撮ったもの  
が、写真④です。黒く丸い線がはっきりと  
写っています。



写真③違棚左脇下（部分拡大）

これはもと  
は引手があっ  
た場所です。  
違棚部分に再  
構築する際、  
引手金具を外  
し、穴が開い  
たこの場所に  
補修が施され  
ました。  
写真③を改  
めて見ると、



写真④違棚左脇下透過赤外画像

葉の表現がうまく繋がるように工夫してい  
ることが分かります（赤線部分）。この補  
修箇所も調査したところ、使用されたのは  
『松に立葵図』の一部であることが明らか  
になりました。このようなことは、修復を  
行わなければわからなかったことです。

『松に立葵図』は各面に切り継ぎや補修  
跡がありますが、いずれもそれが目立たな  
いようになつており、当時の工夫を知るこ  
とができます。

障壁画は常時公開しておりますので、ぜ  
ひとも修復の跡にも注目してご鑑賞くださ  
い。

※写真提供…岡墨光堂さま（写真②～④）。写真  
内の赤線は、現在の形状に整形された時に継がれ  
た箇所、あるいは欠失の境界線を示す（加筆は岡  
墨光堂さまによる）。

【お知らせ】

宝物館では令和七年（二〇二五）五月一  
日より新たな企画展を開催いたします。

展示テーマや展示品、展示期間などの詳  
細はウェブサイトで随時更新を予定してお  
ります。



令和6年度企画展

# 総本山智積院——修復の歴史

場所：特別展示室



## 出陳目録

アルファベット A～D は下記の館内図のアルファベットと対応

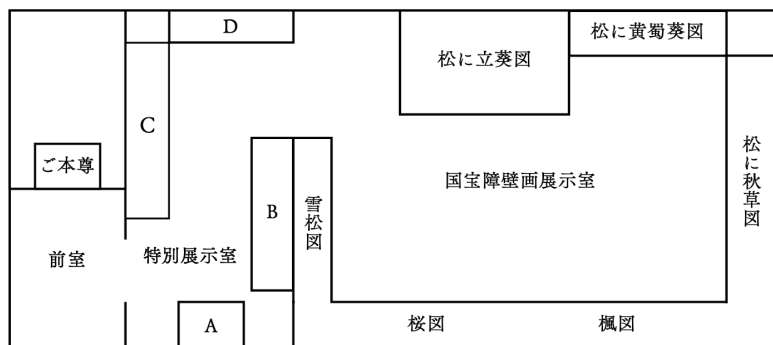
出陳期間

	名称	時代	員数	R6.5/1～7/30	8/1～10/30	11/1～R7.1/30	R7.2/1～4/29
A	松に立葵図 旧下地・四分一		一式				
B	松に立葵図 旧修理銘		一式				
B	智積院靈寶并袈裟世具目録 上	江戸時代	1冊				
B	智積院法具世具目録 下	江戸時代	1冊				
B	遊智積記	江戸時代	1巻				
B	十如是	江戸時代	1巻				
C	太元大曼荼羅	江戸時代	1幅				
C	千手観音像	江戸時代	1幅				
C	普賢延命像	江戸時代	1幅				
C	星曼荼羅	江戸時代	1幅				
C	第十世専戒僧正像	江戸時代	1幅				
C	出山釈迦図	江戸時代	1幅				
D	額字（「密厳堂」）	江戸時代	1幅				
D	不動明王図	室町時代	1幅				
D	地藏尊像	南北朝時代	1幅				
D	家綱公書	江戸時代	1幅				

休館日 毎年1月31日、4月30日、7月31日、10月31日、12月29日～31日

※智積院の行事により臨時休館する場合があります。

展示品・休館日などの詳細は当院宝物館ウェブサイトをご参照ください。



館内図

開館時間 午前9時～午後4時半  
(最終受付は午後4時)

宝物館拝観料 一般 500円  
中高生 300円  
小学生 200円  
(小学生未満無料)

※団体割引(20名以上、1名につき50円引)

※障がい者手帳提示で本人無料(付添は有料)

※名勝庭園は別途拝観料が必要です

お問い合わせ 総本山智積院宝物館

TEL 075-532-5655

FAX 075-532-5656

智積院宝物館ウェブサイト

<https://chisan.or.jp/worship/artifact/>

